

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:2019年10月18日

事業所名 さんま

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1		基準内の面積がある。また、他事業共有スペースの活用により、利用者の満足度につなげている。	
	2	職員の配置数は適切である	1		保育士、児童指導員等を2名以上配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		1		民間等の助成事業に申請し、今後は身体障害を持った児童も利用しやすい施設にしていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1		事例を検討するミーティングを週に1日以上開いている	参画しやすいシステムを作り実施していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている				2年目以降実施する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している				2年目以降実施する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1			外部講師を招いた研修会を開き、講師に第三者としての視点で意見や感想をもらい、業務改善につなげている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	1		外部講師を招き研修会を行っている。県や市主催の研修に、業務として参加させている。内部研修として、事例検討や、ミーティングのファシリテーションの練習を定期的実施している。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	1		サービス等利用計画のアセスメントを参考に、保護者との面談、本人の観察により、計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1		指標該当や医師からの診断等を保護者から聞き取り、サービス等利用計画のアセスメントを参考にしている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	1		スタッフ全員で行っている。	

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	1		季節や本人の興味、学校等での活動のつながりを意識し活動に取り入れている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	1		長期休暇時には、昼食、読書タイム(読み聞かせ)、プールへのお出かけ、遠足等の特別プログラムを実施している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	1		一斉の片付け、掃除タイム、長期休み時の点呼時その後のゲームタイムなど集団での活動も取り入れている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	1		月曜のミーティング、朝のミーティング、活動前のミーティングを行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1		終了時に振り返りを行うほか、ノートや日誌に引き継ぎ事項を残し、翌朝のミーティングで行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	1		日誌を管理者がチェックし、正しい記録に努めている
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	1		6か月に1度モニタリングを実施し、計画の見直しの必要を見極め、計画を再度立て直している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	1		ガイドラインに則り基本活動を複数組み合わせさせて実施している。
	関係機関や保護者	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		1
21		学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	1		下校予定をもらうほか、日常連絡を行っている。
22		医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		1	現在該当者がいない。協力医療機関と連絡を行っている。
23		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1		保護者の同意を得て、行っている。
24		学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		1	まだ該当者がいないが、今後検討する。
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		1	今後検討する。	

との連携	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1		日々行っている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1		甲賀圏域の協議会、子ども連絡会に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	1		送迎時また6か月に1度の面談時に密接にコミュニケーションをとるようしており、子どもの状況や課題について共通の理解ができるよう努めている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1		参加無料の講演会を開き、子育ての悩みの軽減になるよう働きかけを行っている。	
保護者への説明	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	1		契約時の説明で重要事項の説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	1		常に寄り添う姿勢を大切に、適時、一人ひとりにあった対応をしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1		今後父母会等組織を整備し、イベント等により保護者同士のつながりも確保していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	1		スタッフの情報共有を行い、迅速・適切・丁寧な対応を心掛けている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	1		毎月の保護者向けのお便り、年4回発行している法人支援者、各関係機関向けの法人会報での事業報告に掲載し、保護者にも配布している。	

責任等	35	個人情報に十分注意している		1		錠つきロッカーを確保し、適切に保管していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		1	分かりやすく、丁寧に伝えることを心がけ、文書、メール、口頭で複数回行うなど配慮している。また、外国語話者の利用者及び保護者へは時に外国語ボランティアの力も借りて特に丁寧にしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		1	日々の挨拶などの声掛けをはじめ、イベント時のお誘いや、作品のおすそ分けなど積極的に行っている。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		1		各マニュアルを早急に整備する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		1		年2回実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		1		事業所外研修に参加させるようにする。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		1		個別支援計画策定時、会議、面談、にて説明を行い、個別支援計画に了解を得る。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		1		必ず情報カード提出時に、当該児童のアレルギーに関してヒヤリングを行い、除去レベルを確認している。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		1		事例のたびに共有しているが、専用のファイルを作成し保管し、定期的に検証の機会を持つ。	